

| | |
|------------------|----------------------|
| 前 奏 黙想 | 祈 禱 |
| 讃美歌 23 くるあさごとに | 讃美歌 177 かみのいきよ |
| 祈 禱 | 献 金 |
| 信仰告白 使徒信条 566 | 讃 詠 547 いまささぐるそなえものを |
| 聖 書 イザヤ書 59:1~2 | 黙 禱 |
| 使徒言行録 1:6~8 | 主の祈り 564 |
| 讃美歌 302 み神の風をば | 頌 栄 544 あまつみたみも |
| 説 教 『キリストの証人になる』 | 祝 禱 後 奏 |

「わたしは先に第一巻を著して～(使徒 1:1)」と書き始められる使徒言行録。第一巻とは、イエスの出来事が記されたルカ福音書。その同一著者が、この第二巻で教会の出来事を語ろうとしている。

「さて、使徒たちは集まって〔主よ、イスラエルのために国を立て直してくださるのは、この時ですか〕と尋ねた(1:6)」。尋ねた相手は復活したイエスで、すでに「四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話していた(1:3)」。使徒たちはイエスから、長々と「神の国」のことを聞いているのに、全員が「イスラエルの勃興」だと勘違いしている。あまりな無理解。使徒たちは、イエスの復活によって十字架の敗北から立ち上がった。しかし彼らには「神の国」の内容が響かなかった。それともイエスの話が不可解すぎて、理解できなかったのか。キリストに出会ったとしても、信仰が成熟するわけではない。私たちも信仰に養われながら、いや養われるがゆえに、不完全さを抱えてその道を往く。

洗礼を受け、キリストの弟子になっても、恵みや赦しの何たるかが分かったり、納得するわけではない。私たちの先入観があまりに頑迷だからだ。また真実の「時」も、御手の内にある。いくら「この時ですか(1:6)」と期待してもその通りにはならない。イエスは「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない(1:7)」と使徒の期待をピシヤリ否定する。

「主の手が短くて救えないのではない。主の耳が鈍くて聞かえないのではない。むしろお前たちの悪が、神とお前たちの間を隔て、お前たちの罪が御顔を隠させ、お前たちに耳を傾けられるのを妨げているのだ(伊や59:1~2)」。そうきつく言わなくても、民の目や耳は先入観に覆われている。

民のように私たちもそう感ずるだろう。祈りが「聞かれない」のは、神が世界の膨大な祈りに対処している真っ最中で、順番待ちの状態か、と。つまり主の手は短く、主の耳は鈍いのではないか、と思う。そうした神の限界は、そのまま私たち自身の投影で、自分の範囲内に神を引き下げてしまう。

復活のイエスは使徒たちに言った。「ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を受けられる(使徒 1:5)」と。使徒らはイエスの言葉を、イスラエルの勃興だと勘違いしたが(1:6)、焦点は「聖霊による洗礼」。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受け(1:8)」、「地の果てに至るまで、わたしの証人となる(1:8)」のだと。エルサレムから見れば、ここ極東島国の八ヶ岳山麓は、ほとんど地の果てだ。ここで「一人の証人」にされている私たちにとって、地の果てはまだ先。ただ地理的な地の果てはもう無く、次は「証人の密度」だ。こう言うと二つの意味が想像されよう。一つは人口と比較した信仰者の密度。もう一つは、信仰者それぞれが生きているキリストの密度。

ただ誤解しないでほしい。各々の「キリストの密度」の高まりを願っても、教会の支配を強め、行動規範を命ずることではまったく無い。むしろ逆だ。「聖霊が降って力を受ける(1:8)」ことに人為的な策があってはならないのだ。教会による暗黙の縛りを何かしら感じたとしても、それは思い込みか人為による先入観だから(1:6)、どうか気になさらぬように。それより、縛られていることに慣れきっているあなた自身を、聖霊の力によって解き放ち、真にあなたらしいキリスト者になってほしい。

一人ひとりを手作りされた創造主の愛。聖霊の力をこの身に受けつつ、愛の創造に応え続けたい。

自由は孤独とは違う 誰と出会っても弱さを見せられること 自虐ではなく明るく平気でいられる
恵みは十分 弱さの中で十分に発揮される(Ⅱコリント12:9) 互いに神の恵みによる 競いようもない

先週は総会があったので、月に一度の掃除は本日礼拝後に 20 分程度おこないます。本日 2:30~山梨分区分会(日下部教会)、青柳均さんと牧師が出席。牧師の動き:5/1 午前、YMCA で聖書のおはなし。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。